

第4回

広島大学附属学校園
合同研究フォーラム実施報告書

— 新学習指導要領・教育要領実施に伴う授業の在り方 —

2012

8/20^月

主 催：広島大学

場 所：広島大学附属小学校・中学校
高等学校

< ご 挨拶 >

本日は、第4回広島大学附属学校園合同研究フォーラムを、翠地区において開催することができ、心から嬉しく思います。

本学理事・副学長の坂越正樹先生におかれましては、ご多用中にもかかわらず基調講演を快くお引き受け頂きてありがとうございました。また、本日は、各附属学校園の先生方におかれましても一同にお集まり頂き、日頃の研究教育の成果をめぐる活発な意見交換や情報交流を行って頂く予定になっております。

ご承知のように、広島大学は附属幼稚園から附属高等学校まで他に類をみない数（11校）の附属学校園を擁しており、それぞれの附属学校園では先進的な教育研究活動が活発に展開されております。そして、それらの研究成果は広く社会に発信され、我が国公教育の発展に少なからず貢献してきたものと自負しております。

しかしながら、一方で、近年様々な社会的情勢等の変化により、国立大学附属学校園の使命や役割等が厳しく問い直され、広島大学附属学校園も例外なくその存在意義を改めて社会に示す必要性が生じてきていることもまた事実であります。文部科学省においても、国立大学附属学校の使命を「国の拠点校」「地域のモデル校」と明示し、各附属学校園の果たすべき具体的な役割を明確にした上でその社会的アカウンタビリティを果たすように求めています。本合同フォーラムが、かかる文脈にそって、広島大学附属学校園の存在意義を広く社会に喧伝する絶好の機会となるよう期待しているところであります。

本日は、まず、理事・副学長の坂越先生より「大学附属学校園からの発信」という主題でご講演をいただき、広島大学附属学校園の果たすべき役割を俯瞰的立場からお示し頂くことになっております。その後、各分科会に分かれ、それぞれの専門領域での討議を行うことになっております。本年度は、A 自然・数理領域、B 社会科学領域、C 言語活動領域、D 健康・生活領域、E 芸術・表現領域といった5つの分科会を設定し、学校種や教科を超えた意見交換や情報交流にも配慮いたしました。各附属学校園における具体的な研究活動の一端を再確認するとともに、それぞれの附属学校園の今後の教育研究活動を考える際の参考にしていただければと思います。

また、広島大学附属学校園といった小さな世界にとどまらず、このフォーラムの成果が広く全国の国立大学附属学校園や一般の公立学校園にも有益な知見をもたらし、我が国公教育の発展にも貢献することができるよう心から念じている次第です。

簡単ではございますが、第4回広島大学附属学校園合同研究フォーラムが有意義かつ盛会となりますようお願いし、開会のご挨拶といたします。

平成24年8月20日

第4回広島大学附属学校園合同研究フォーラム実行委員会代表
広島大学附属中・高等学校 校長 古賀 一博

＜ 実 施 要 項 ＞

- 1 日 時 平成24年 8月20日(月) 13:00～16:30
- 2 場 所 広島大学附属小・中・高等学校 広島市南区翠一丁目1-1
- 3 テーマ 「新学習指導要領・教育要領実施に伴う授業の在り方」
- 4 日 程 12:40～13:00 受付
 13:00～13:10 開会行事(中・高講堂)
 13:15～14:30 講話
 14:45～16:30 分科会
- 5 講 師 広島大学理事・副学長(教育担当) 坂越 正樹
 テーマ 「大学附属学校園からの発信」
- 6 分科会構成

分科会	発表者・内容	司会者・記録者	指導助言者	運営委員
A 自然・数理 領域	附属中・高等学校 教諭 橋本 三嗣 「数学的活動を通じた創造性の育成について」	附属中・高等学校 司会：砂原 徹 記録：喜田英昭	附属福山中・高等学校 校長 岩崎 秀樹 (広島大学大学院教育学研究科 教授)	附属中学校 副校長 壇 泉 附属福山高等学校 副校長 竹盛浩二
	附属中・高等学校 教諭 梶山 耕成 「本校が取り組むスーパーサイエンスハイスクール」	附属中・高等学校 司会：平松敦史 記録：世羅晶子		
	附属福山中・高等学校 教諭 清水 浩士 「数学的活動を活かした授業実践」	附属福山中・高等学校 司会：山下雅文 記録：重永和馬		
B 社会科学 領域	附属東雲中学校 教諭 迫 眞也 「中学校社会科におけるICTを活用した宗教的教育内容の授業実践」	附属東雲中学校 司会：西 勉 記録：藤井朋子	附属小学校 校長 由井 義通 (広島大学大学院教育学研究科 教授)	附属東雲中学校 副校長 神原一之 附属高等学校 副校長 隠善富士夫
	附属中・高等学校 教諭 高田 悟 「福島原発事故の授業化」	附属中・高等学校 司会：宮本英征 記録：阿部哲久		
C 言語活動 領域	附属小学校 教諭 立石 泰之 「教科・教材の特性に応じた言語活動の充実の在り方」	附属小学校 司会：伊藤公一 記録：市村広樹	附属三原幼・小・中学校 校園長 深澤 清治 (広島大学大学院教育学研究科 教授)	附属幼稚園 副園長 金岡美幸 附属三原中学校 副校長 桑田一也

	附属三原中学校 教諭 松尾 砂織 「文法事項の習得と コミュニケーション能力の活用について」	附属三原中学校 司会：石川嘉一 記録：小廣川和恵		
D 健康・生活 領域	附属三原小学校 教諭 小早川 善伸 「運動が『わかる』『できる』、学びを『いかす』授業の創造」	附属三原小学校 司会：石井信孝 記録：湯浅理枝	附属東雲小・中学校 校長 林 孝 (広島大学大学院教育学研究科 教授)	附属三原小学校 副校長 大上輝明 附属福山中学校 副校長 三藤義郎
	附属福山中・高等学校 教諭 三宅 幸信 「中学校『保健』の発展的学習の可能性について」	附属福山中・高等学校 司会：平賀博之 記録：藤本隆弘		
E 芸術・表現 領域	附属三原幼稚園 教諭 君岡 智央 「豊かに表現する子どもの育成をめざして」	附属東雲小学校 司会：土井 徹 記録：番本充俊 附属三原幼稚園 記録：掛 志穂	附属幼稚園 園長 松尾 千秋 (広島大学大学院教育学研究科 教授)	附属三原幼稚園 副園長 池田明子 附属東雲小学校 副校長 秋山 哲
	附属東雲小学校 教諭 天野 紳一 「鑑賞リテラシーを高めるコミュニケーションの在り方」			

＜ 提 案 等 目 次 ＞

1	講話：「大学附属学校園からの発信」 広島大学理事・副学長（教育担当） 坂越 正樹	1
2	分科会A記録：自然・数理領域	
	(1)「数学的活動を通じた創造性の育成について」 附属中・高等学校 橋本 三嗣	5
	(2)「本校が取り組むスーパーサイエンスハイスクール」 附属中・高等学校 梶山 耕成	6
	(3)「数学的活動を活かした授業実践」 附属福山中・高等学校 清水 浩士	7
3	分科会B記録：社会科学領域	
	(1)「中学校社会科における ICT を活用した宗教的教育内容の授業実践」 附属東雲中学校 迫 眞也	12
	(2)「福島原発事故の授業化」 附属中・高等学校 高田 悟	13
4	分科会C記録：言語活動領域	
	(1)「教科・教材の特性に応じた言語活動の充実の在り方」 附属小学校 立石 泰之	17
	(2)「文法事項の習得とコミュニケーション能力の活用について」 附属三原中学校 松尾 砂織	18
5	分科会D記録：健康・生活領域	
	(1)「運動が『わかる』『できる』、学びを『いかす』授業の創造」 附属三原小学校 小早川 善伸	21
	(2)「中学校『保健』の発展的学習の可能性について」 附属福山中・高等学校 三宅 幸信	22
6	分科会E記録：芸術・表現領域	
	(1)「豊かに表現する子どもの育成をめざして」 附属三原幼稚園 君岡 智央	25
	(2)「鑑賞リテラシーを高めるコミュニケーションの在り方」 附属東雲小学校 天野 紳一	26
7	発表資料	
	(1) 分科会A： 附属中・高等学校 橋本 三嗣 31 附属中・高等学校 梶山 耕成 35 附属福山中・高等学校 清水 浩士 38	
	(2) 分科会B： 附属東雲中学校 迫 眞也 41 附属中・高等学校 高田 悟 46	
	(3) 分科会C： 附属小学校 立石 泰之 51 附属三原中学校 松尾 砂織 55	
	(4) 分科会D： 附属福山中・高等学校 三宅 幸信 68	
	(5) 分科会E： 附属三原幼稚園 君岡 智央 79 附属東雲小学校 天野 紳一 86	

< 講 話 >

講 師：広島大学理事・副学長（教育担当）
テーマ：「大学附属学校園からの発信」

坂越 正樹

「大学附属学校園からの発信」

広島大学理事・副学長（教育担当）
坂越 正樹

1

1. 国立大学附属学校のあり方

- ☑全国56大学
- ☑261校園
- ☑園児児童数 99,000人
- ☑教員数 5,500人

2

「国立大学附属学校の新たな活用方策等について」 （平成21年3月 文科省・有識者検討会）

これまでもこれからも期待される役割

1. 大学・学部における教育に関する研究に協力
2. 大学・学部の計画に基づく教育実習の実施

3

これからの存在意義（明確化）

1. 「拠点校」として国の教育政策の推進に寄与
2. 地域の教育の「モデル校」

そのために

地域運営協議会、公立との人事交流、
大学教員と附属教員の連携
特化したテーマでの開発調査研究

4

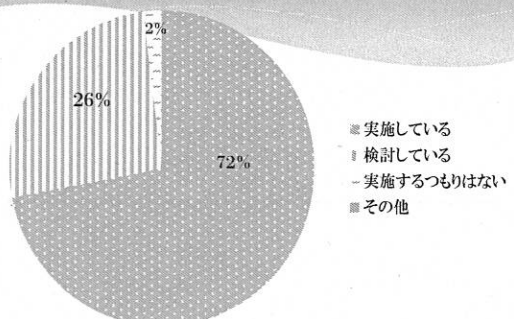
「大学・学部の附属学校園における改革の現状と
問題点 ～今後の展望に関する調査報告書」日本
教育大学協会附属学校委員会（平成21年12
月）

「国立大学・学部の附属学校園に関する調査 ～
第2期中期目標・中期計画に基づく改革の実態と
課題、今後の附属学校園の展望」日本教育大学
協会附属校委員会（平成23年3月）

「国立大学附属学校園の新たな活用方策」平成
22年度文科省大学改革推進委託事業・山梨大
学人間科学部

5

設問：貴大学・学部は附属学校の新たな活用策
として取り組みを実施していますか



6

記述内容(検討中を含む)では以下の件数があげられている。

- ①外国人子弟等の積極的な受け入れによる教育の在り方の調査研究7件。
- ②理数教育など優先的な教育課題に応じた先導的な指導方法等の開発15件(教育課題研究3件を含める)。
- ③学校の組織マネジメント・人材育成の調査研究7件。
- ④異学校種間の接続教育、一貫教育の調査研究24件。
- ⑤特別支援教育への寄与29件。
- ⑥児童生徒の勤労観、職業観を育てるためのキャリア教育の推進14件。

全体としては、特別支援教育と異学校種間の連携教育が多く取り上げられている。特別支援教育は「通常学級における特別支援教育」について数校が取り組んでおり、異学校種間の連携教育は、附属学校間の連携以外に「附属中学校と県立高校の接続連携」というテーマもあった。「外国人子弟等の積極的な受け入れによる教育」については件数が少ない。今日的課題として、さらに多くの学校が取り組むであろう。

7

関連情報

中央教育審議会 教員の資質能力向上特別部会

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(審議経過報告)平成23年1月13日

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(審議最終まとめ案)平成24年6月25日

8

○社会の急激な変化、高度化・複雑化する課題への対応

1. 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて学び続ける力「学び続ける教師像」
2. 専門職としての高度な知識・技能
教科・教職専門知識、新たな学びを展開できる実践的指導力、
教科指導・生徒指導・学校経営実践力
3. 総合的人間力
豊かな人間性、社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域社会との連携協働

9

- －教育委員会、大学との連携
- －教員養成の修士レベル化、専門免許状
- －教職大学院
- －メンターチーム、初任／中堅教員協働人材育成
- －校内研修・自主研修の活性化
- －多忙化の解消
- －教職や学校が魅力ある職業、職場となるように
- －国立大学付属校について、担当スタッフの配置など実習の拠点校としての機能強化、地域の公立学校の実習指導教員の指導力向上、実習における公立学校との協力体制構築

10

2. 広島大学附属学校園の現在

5地区11校園 113クラス 4,046人
(H24. 5. 1)

小学校 42クラス 1,416人
中学校 33クラス 1,227人
高等学校 30クラス 1,200人
幼稚園 8クラス 203人

11

○経費／年

人件費 1,985,687千円
物件費 397,057千円

計 2,382,744千円

12

3. おわりに

○現状課題の認識

○これからの可能性・方向性

— 教員集団としての力量形成
職員室文化、同僚性

13

[参考]

「同僚性」

○職場集団が教育活動の効果的な遂行や教師の力量形成のために重要であり、仕事に起因する問題状況を緩和する機能を持つといった、集団の意義や機能を最大限に発揮している状況をさす概念

- 学校組織の実際場面(学年集団、TT、複数担任)
- 欧米の不干渉文化と日本の協働文化
- ただしプライベート化の現代的傾向

14

日米教員文化比較

米教員:

- スペシャリスト・独立志向、教科・学年担当の固定化、自由裁量・個性化(←→教員同士の実践交換・模倣)
- 時間割・昼休憩のズレ
- 教師と教室は「卵ケース」——学級王国?
- 経験年数の近い教員が同学年担当
- 能力志向的学校文化——教師は判定者
ドライな学習
- 時間による「労働」観

15

日本教員:

- 小学校は専門性が広範柔軟(1~6年担当)
- ベテランと新任を組み合わせる学年集団
男性+女性+若さ
- 課題志向的学校文化——努力が大切
小学校中学年から減少傾向
ウェットな学習
- 時間ではなく区切りをつける「労働」観
集団的農作業のDNA?

16

Q同僚と学校を離れてもインフォーマルに付き合う

	英国	中国	日本教員
あてはまる	42.5	44.9	13.2
ややあてはまる	38.3	44.6	47.5
あまりあてはまらない	14.8	7.2	31.8
あてはまらない	4.3	1.7	5.1
N. A.	0.2	1.7	2.3

「教員の意識に関する国際比較調査」藤田ほか2003

17

Q同僚と教育観や教育方針について語り合う

	英国	中国	日本教員
あてはまる	55.5	47.2	15.8
ややあてはまる	38.7	45.3	61.5
あまりあてはまらない	4.3	4.4	17.9
あてはまらない	1.1	1.1	2.8
N. A.	0.4	1.9	2.0

18

Q同僚の授業を見たり自分の授業を見せたりする

	英国	中国	日本教員
あてはまる	32.5	51.4	16.3
ややあてはまる	42.0	39.1	45.8
あまりあてはまらない	19.3	6.7	29.2
あてはまらない	5.9	0.8	6.0
N. A.	0.3	1.9	2.7

19

Q他の教師の学級経営に口を挟まない

	英国	中国	日本教員
あてはまる	8.2	50.6	14.3
ややあてはまる	25.3	35.1	42.1
あまりあてはまらない	30.2	9.4	36.0
あてはまらない	35.7	2.3	4.9
N. A.	0.7	2.6	2.6

20

おわりに

☑ 教員間コミュニケーションの必要性

PC休止時間

☑ 教員文化の継承と創造

ロールモデル

☑ 同僚性の支え

タテ(異世代間)とヨコ(同世代間)

学年集団、教科集団、校務のための集団

☑ 職員室文化の活性化

明るい笑いのある職員室

21